

1. はじめに

6月1日からD区農道部分の調査が始まりました。農道の通行止めに伴い、近隣の皆様には大変ご不便とご迷惑をおかけしております。ご協力に感謝いたします。

現在は、C・D区下面（縄文時代後期：約4,000～3,500年前）の調査を行っています（第1・2図）。



第1図 発掘調査ようす（1）



第2図 発掘調査のようす（2）

2. 発掘調査の状況

下面では、縄文人たちが営んだ集落の具体的な姿が見えてきました。

D区は20か所以上の埋設土器が密集する「葬送の場」（第5図①）になります。この東端には、生と死の境界を示すように、とても大きな礫が並べられています（第3図）。

C区中央は大小の礫集中が10か所以上ある「マツリ・生活の場」（第5図②）です。大型礫や砂利、焼土を中心に5～6mの範囲にまとまります。この中には住居もあるようです。マツリに使われたと考えられる石棒（せきぼう）も出土しています（第4図）。

B区～C区東側では遺物・土器集中が20か所以上あり、「モノ送りの場」（第5図③）になります。ここでは、たくさんの土器のほか、ハート形土偶や人面装飾付土器（じんめんそうしょくつきどき）などが見つかっています。人面装飾付土器は、人物表現を施した土器です。土橋遺跡では把手部分に人面が付けられています。土偶とともに縄文人の精神世界を表しているのかもしれませんが。

このように、土橋遺跡の縄文人は、「空間」や「場」をととても意識して集落を営んでいたことが想像されます。今後は、それぞれの「場」でどのような活動が行われていたのか、また、「場」と「場」の関係についても検討しながら調査を行っていきたいと考えています。



第3図 境界に並べられた大型礫



第4図 石棒出土状況



埋設土器 (①葬送の場)



土偶

(②マツリ・生活の場)



人面装飾付土器

(③モノ送りの場)



大量の土器 (③モノ送りの場)

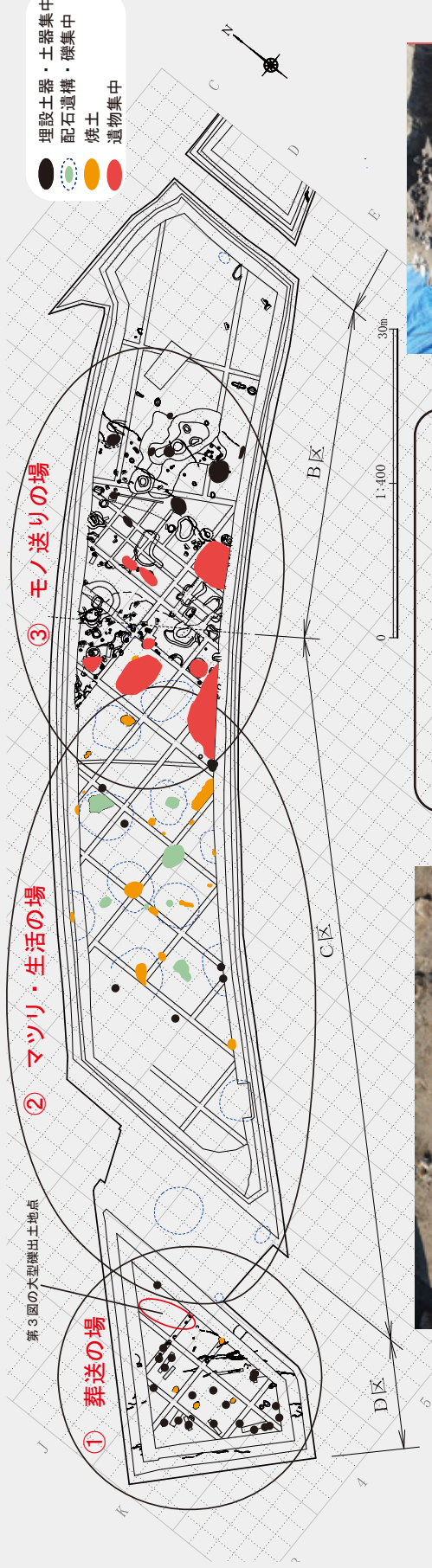
第3圖の大型陶出土地点

① 葬送の場

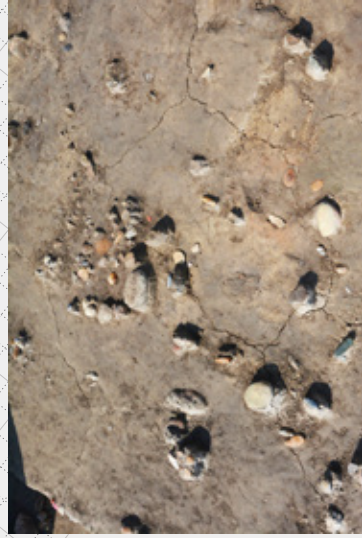
② マツリ・生活の場

③ モノ送りの場

- 埋設土器・土器集中
- 配石遺構・礎集中
- 焼土
- 遺物集中



埋設土器 (①葬送の場)



住居の石囲炉? (②マツリ・生活の場)



大量の土器 (③モノ送りの場)

第5図 下面遺構全体図